

## ◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が5,549例あり、本年の累積報告数は59,923例になりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。  
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(60歳代男性)ありました。感染経路は水系感染です。本年の累積報告数は3例になりました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が3例(50歳代男性, 60歳代女性, 80歳代女性)(第8週追加報告分含む)ありました。本年の累積報告数は5例になりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(10歳未満男性)ありました。症状は発熱, 肺炎, 菌血症等です。本年の累積報告数は6例になりました。
- 梅毒の報告が1例(50歳代男性)あり、症状は神経症状です。感染経路は性的接触, 感染地域は国内です。本年の累積報告数は15例になりました。  
本年は、ほぼ毎週梅毒の報告があり、昨年同時期の7例と比較しても多い状況です。  
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け、コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。
- 百日咳の報告が1例(80歳代女性)ありました。本年初めての報告です。
- インフルエンザは、市内69の定点医療機関から報告はありませんでした。全国でも報告数は極めて少なく(今週は定点医療機関数約5,000から21例の報告)、現在のところ流行の兆候はありません。  
京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。  
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
- 小児科定点把握感染症の推移は、前週までと大きな変化はありません。本市で流行の兆候の見られるものはありません。

## ◆ 今週のトピックス: <新型コロナウイルス感染症>

京都市では、今週新型コロナウイルス感染症(以下COVID-19)の新規陽性者が5,549名確認されました。国内で第1例目が確認された2020年1月15日以降の京都市と全国の新規陽性者数推移を週別にみると、京都市と全国はほぼ同じ流行曲線を描いています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 6例(肺結核 5例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 2例  
【1月以降の累積報告数 42例(肺結核 18例, その他結核 13例, 潜在性結核感染者 11例)うち喀痰塗抹陽性 5例】
- 新型コロナウイルス感染症 5,549例【1月以降の累積報告数59,923例】
- 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 3例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症3例【1月以降の累積報告数 5例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- 五類:梅毒 1例【1月以降の累積報告数 15例】
- 五類:百日咳 1例【1月以降の累積報告数 1例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.28	98
	② 突発性発しん	0.16	7
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.12	5
	④ RSウイルス感染症	0.05	2
	⑤ 咽頭結膜熱	0.02	1
	⑤ 水痘	0.02	1
	⑤ 手足口病	0.02	1
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.02	1
眼科	流行性角結膜炎	0	0

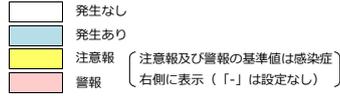
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <新型コロナウイルス感染症>  
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

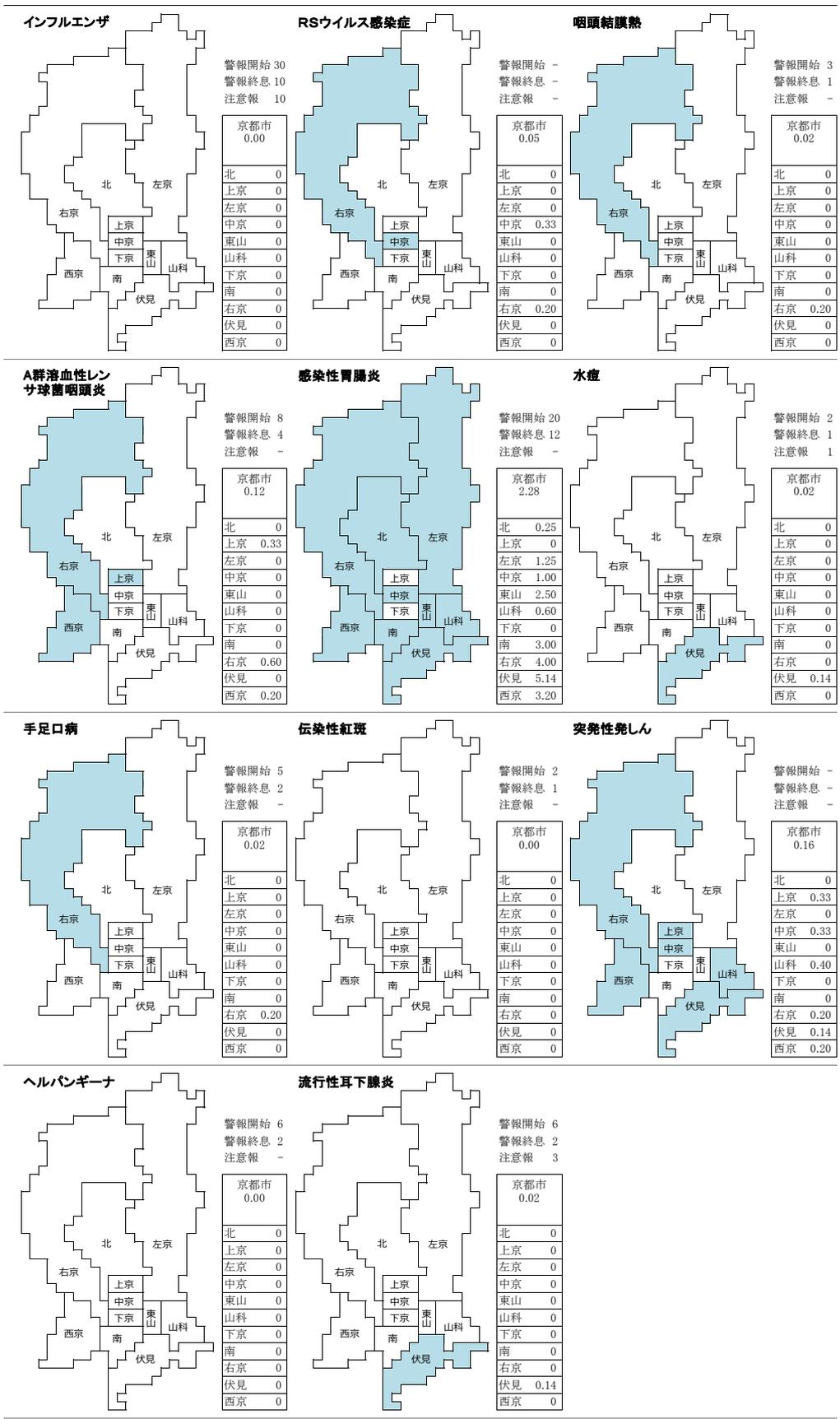
(注) 京都市のデータは、2022年3月9日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
\* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2022年第9週】



定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。  
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の立地条件や  
 規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



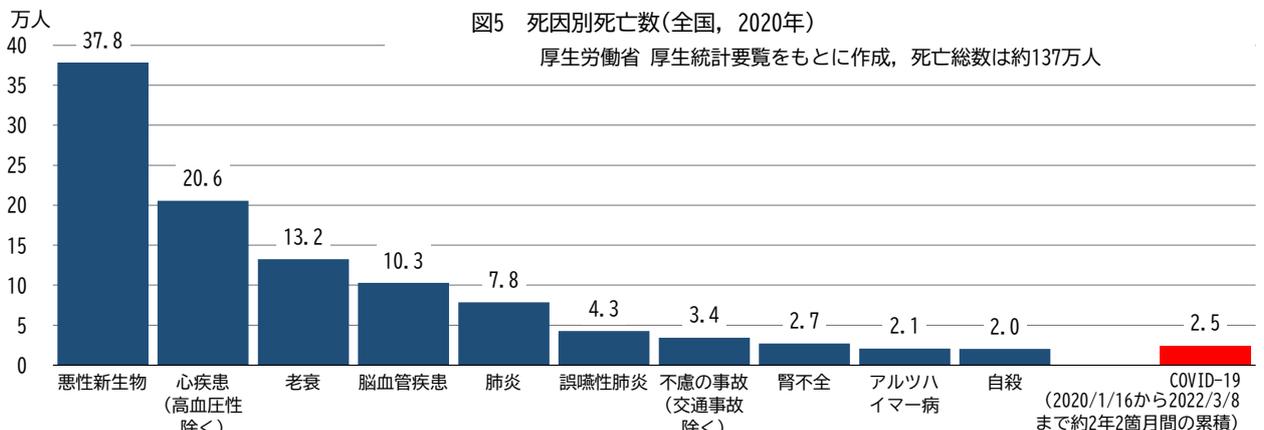
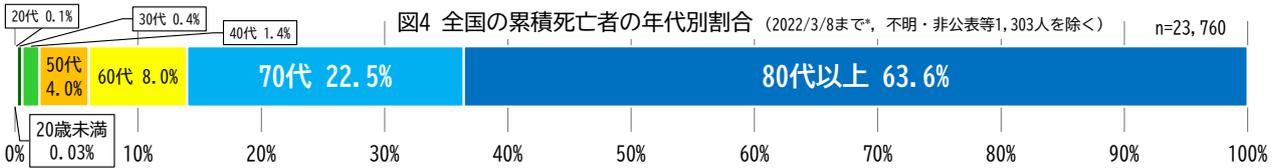
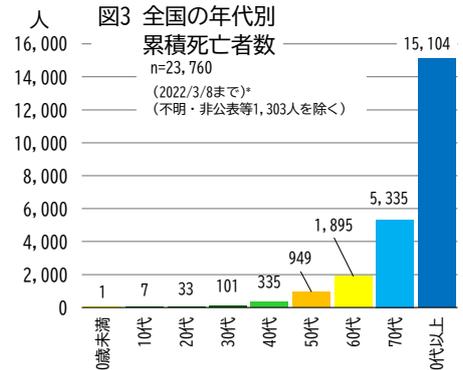
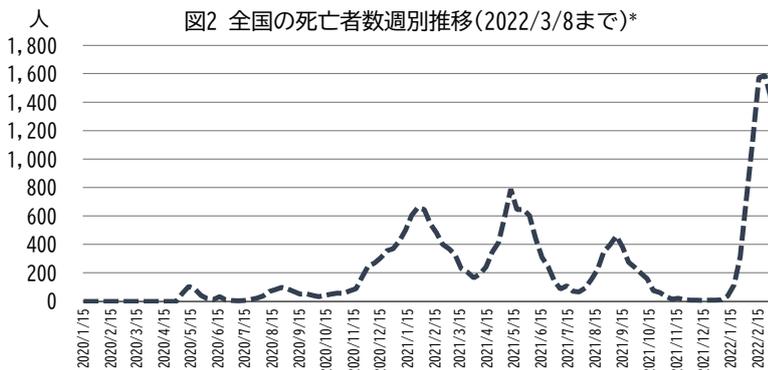
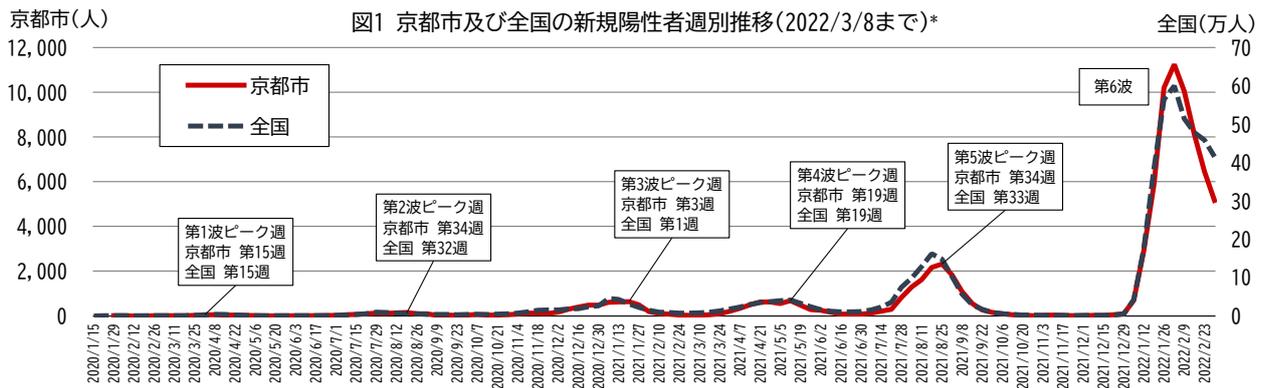
## 第9週(2月28日～3月6日)トピックス: <新型コロナウイルス感染症>

京都市では、今週新型コロナウイルス感染症(以下COVID-19)の新規陽性者が5,549名確認されました。国内で第1例目が確認された2020年1月15日以降の京都市と全国の新規陽性者数推移を週別にみると、京都市と全国はほぼ同じ流行曲線を描いています。第6波のピークは現在のところ確定されていませんが、推移をみると減少傾向にあります(図1)。

次に、全国の死亡者数の推移を同じ期間で見ると、新規陽性者推移のピーク時期に応じて死亡者が増えており、第6波の死亡者数はそれまでのピークに比べて多くなっています(図2)。さらに、年代別の死亡者数を比較すると、70代以上の高齢者が86.1%と圧倒的に多く、40代以下の死亡は合わせて2%程度で少ないです。特に未成年については、ワクチン接種開始が16歳以上は当初から、12～15歳は2021年6月、5～11歳は2022年3月、4歳以下は接種対象外ではあるものの、ワクチン接種開始前を含め、現在のところ死亡はほとんどありません(図3及び図4)。

また、死因別の死亡者数を見ると、日本で三大疾患とされる悪性新生物(2020年は年間約38万人)、心疾患(同21万人)および脳血管疾患(同10万人)や老衰(同13万人)に比べて、COVID-19(約2年間の累積が2.5万人程度)はかなり少ない状況です(図5)。直接の死因がCOVID-19ではない場合も含まれるため、実際にはさらに少ないと考えられます。

死因の上位を占める疾患は、急性期には緊急的医療処置を必要とすることも多く、遅ればば死亡や重度の後遺症につながるおそれもあります。発症者が迅速に医療を受けられないことは避けなければなりません。COVID-19感染拡大防止の大きな目的の一つは医療体制を維持することです。一人ひとりが感染予防を心掛け、医療崩壊を防ぎましょう。



\* 厚生労働省のホームページ「データからわかる - 新型コロナウイルス感染症情報 -」 (<https://covid19.mhlw.go.jp/extensions/public/index.html>) で得られるオープンデータの週別推移は、感染症法による集計で用いる疫学週と異なり2020年1月1日を初日としているため、他の集計と数値が異なる場合がある。疫学週の2020年1週初日は2019年12月30日である。

T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第9週

疾病,行政区別報告数

2022年2月28日～2022年3月6日

データ入手日:2022年3月9日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	1	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	1	1	3	20	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	-	36	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	1	16	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	2	1	5	98	1	1	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	0.33	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	1.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	0.33	-	-	1.00	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	2.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	-	0.60	-	-	-	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	0.20	0.20	0.60	4.00	-	0.20	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	-	5.14	0.14	-	-	0.14	-	0.14	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	0.20	3.20	-	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	0.05	0.02	0.12	2.28	0.02	0.02	-	0.16	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

# 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第9週

年齢階級, 疾病別報告数

2022年2月28日～2022年3月6日

データ入手日:2022年3月9日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5	-	-	-	1	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		98	1	4	17	14	6	9	6	5	4	2	5	16	5	4						
水痘		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		7	-	4	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.05	-	-	0.02	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.02	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.12	-	-	-	0.02	0.05	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		2.28	0.02	0.09	0.40	0.33	0.14	0.21	0.14	0.12	0.09	0.05	0.12	0.37	0.12	0.09						
水痘		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.16	-	0.09	0.05	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第9週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2022年3月9日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	1	-	1	-
RSウイルス感染症	6	1	2	-	-	2
咽頭結膜熱	3	2	3	3	1	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	7	6	11	26	5
感染性胃腸炎	266	146	111	113	99	98
水痘	2	1	-	-	2	1
手足口病	9	3	1	1	3	1
伝染性紅斑	-	-	-	-	3	-
突発性発しん	5	4	3	6	4	7
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	1	-	1	1	-	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	2	1	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	300	164	128	137	140	116

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	0.01	-	0.01	-
RSウイルス感染症	0.14	0.02	0.05	-	-	0.05
咽頭結膜熱	0.07	0.05	0.07	0.07	0.02	0.02
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.16	0.16	0.14	0.26	0.60	0.12
感染性胃腸炎	6.19	3.40	2.58	2.63	2.30	2.28
水痘	0.05	0.02	-	-	0.05	0.02
手足口病	0.21	0.07	0.02	0.02	0.07	0.02
伝染性紅斑	-	-	-	-	0.07	-
突発性発しん	0.12	0.09	0.07	0.14	0.09	0.16
ヘルパンギーナ	0.02	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	0.02	-	0.02	0.02	-	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	0.20	0.10	-
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	6.98	3.81	2.97	3.34	3.32	2.70

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。